

3. オレンジリボン運動の実際的な効果と啓発の試み

1. 目的

青少年が、子どもの命や、子どもを育てることの意味、さらには児童虐待を理解するためには、実際、どのような啓発をすれば効果的かについて、大学祭を実験の場として試みた。調査にあたっては、研究者（商学部教授）の助言により AIDMA モデルを採用した。

AIDMA モデル（インターネットより引用）について

AIDMA 理論とは、マーケティングにおける、消費行動のプロセスに関する仮説のひとつで、「ある商品について、消費者がそれを認知し、購買するに至るまで」の経緯が表された消費者の購買決定プロセスを説明するモデル・理論のことである。米国の学者ローランド・ホールによって提唱された AIDMA の法則では、消費者がある商品を知って購入に至るまでに次のような段階があるとされる。

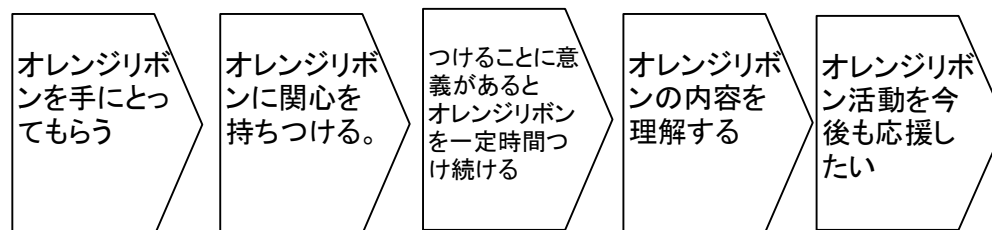
Attention（注意）——テレビ広告などによって注意を引かれる
(オレンジリボンを配りつけてもらう)

Interest（関心）——商品に対する興味を持つ
(オレンジリボンについて関心をもつ)

Desire（欲望）——商品を欲しいと思うようになる
(オレンジリボンを付けることは意義があると考えてる)

Memory（記憶）——商品やブランドを覚える
(オレンジリボン運動の主旨を理解する)

Action（行動）——購買行動を起こす
(オレンジリボン運動を今後も応援したいと考えてる)



2. 方法

大学祭において、大学生がオレンジリボン運動を実施した。そして実施前と実施後の意識の変化について調査した。調査担当は、ゼミ生【20名】が担当した。

分析については、PC-SPSS.13 を利用した。合計が 100%にならない場合がある。

3. 手順

【大学祭前】

①オレンジリボン運動の意義について学生自身が理解をする。

②大学生によるオレンジリボンの作成

オレンジリボンはピンを購入して成型、またオレンジリボンの主旨を記した説明書を作成の上、4000個袋詰めして作成した。

- ③オレンジリボン配布へ向けて、大学祭の参加者名簿を入手し、オレンジリボンの配布先を決定した。
- ④大学祭開始1週間前から、大学祭参加団体、ゼミ代表者に対して、オレンジリボン活動を書いた趣旨を持参し、当日オレンジリボンを配布する旨の同意を取った。
- ⑤当日のオレンジリボン配布計画及び4時間後のリボン着用率調査の周知徹底した。

【大学祭当日】

- ⑥第1回調査平成23年10月15日 オレンジリボン配布開始。大学祭展示教室で来室者にも配布する。また、4時間後の着用率の調査実施した。

【大学祭後】

- ⑦第2回調査平成23年11月15日～12月20日まで
大学祭で出店した模擬店を対象に調査実施した。
調査内容については、「大学祭当日より前に、オレンジリボンを知っていたのか」、「大学祭当日、オレンジリボンをつけたかどうか」、「オレンジリボンの趣旨を理解できたか」、「今後、オレンジリボン運動に参加したいか」について調査を用意し、各担当ゼミやクラブに配布し、回収した。

4. 結果

- (1) 大学祭当日のオレンジリボン配布結果

アンケート調査結果・簡略

実施日:2011年10月15日

時間:オレンジリボン配布 9時から

確認時間13時～(4時間後)

対象:流通科学大学 学園祭参加団体

	団体数	配った数	付けている数	リボンを付けている割合	備考
1 模擬店	49	756	482	64%	
2 教室展示	15	206	170	83%	
3 本部合計	3	37	37	100%	
4 出演団体	2	35	35	100%	
4 合計	69	1034	724		

模擬店	全部57団体
展示	全部21団体

- (2) 4時間後の調査の集計結果

出展参加ゼミ、クラブに対して、アンケート調査を配布した。

【回答】 ゼミ数 配布27ゼミ 回収19 (回収率62.9%)
 クラブ数 配布23クラブ 回収11 (回収率47.8%)

【回収結果】

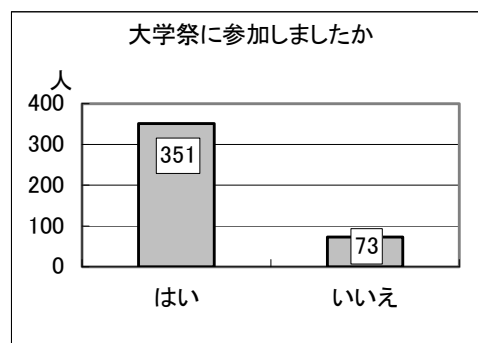
① 大学祭参加者

回収結果は 424 名で、そのうち大学祭に参加した学生は 351 名であった。

表 1

大学祭に参加しましたか

	人数	%
はい	351	82.8
いいえ	73	17.2
合計	424	100



【大学祭に参加した学生についての回答状況】

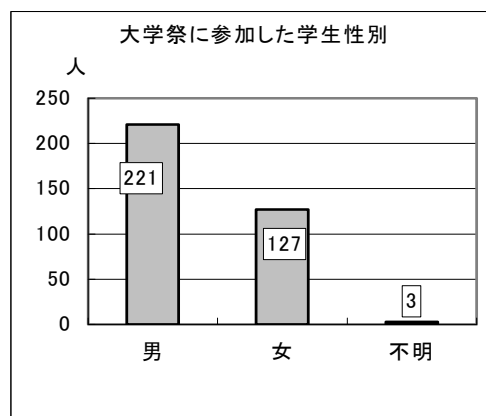
② 大学祭に参加した学生

男子が 63%であった。

表 2

大学祭に参加した学生性別

	人数	%
男	221	63
女	127	36.2
不明	3	0.9
合計	351	100



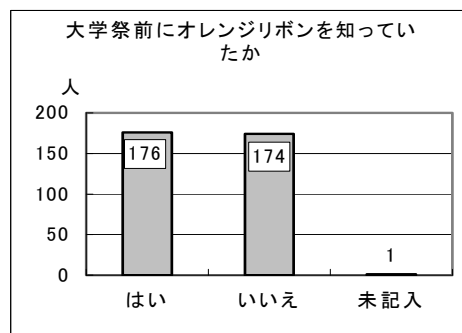
③ 大学祭前にオレンジリボンを知っていたか

大学祭前に知っていた学生は、50.1%であった。

表 3

大学祭前にオレンジリボンを知っていたか

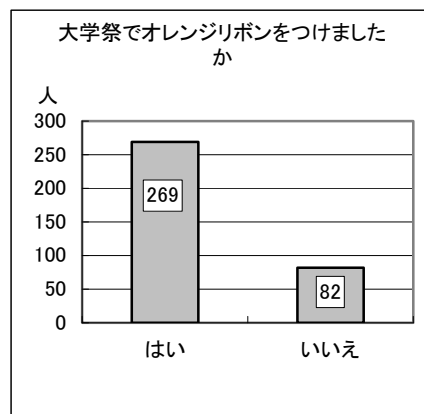
	人数	%
はい	176	50.1
いいえ	174	49.6
未記入	1	0.3
合計	351	100



- ④ 大学祭でオレンジリボンをつけた
リボンを付けた学生は 269 名であった。

表 4
大学祭でオレンジリボンをつけましたか

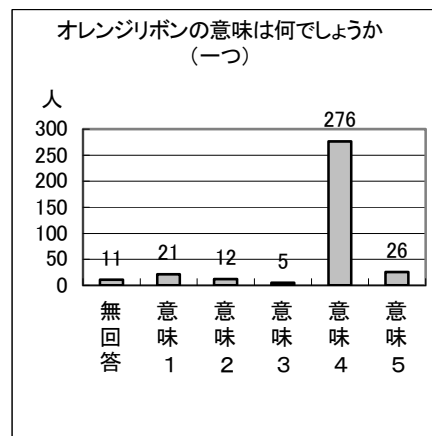
	人数	%
はい	269	76.6
いいえ	82	23.4
合計	351	100



- ⑤ オレンジリボンの意味
オレンジリボンについてたずねたところ、正解は、78.6%であった。

表 5
オレンジリボンの意味

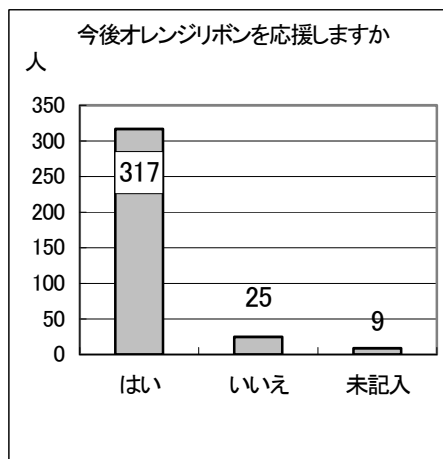
	人数	%
無回答	18	4.2
意味1	28	6.6
意味2	13	3.1
意味3	11	2.6
意味4【正解】	317	74.8
意味5	37	8.7
合計	424	100



- ⑥ 大学祭で参加した学生のうち、今後オレンジリボン運動を応援するか
オレンジリボン運動を応援すると答えた学生は 90.3%であった。

表 6
今後オレンジリボンを応援しますか

	人数	%
はい	317	90.3
いいえ	25	7.1
未記入	9	2.6
合計	351	100

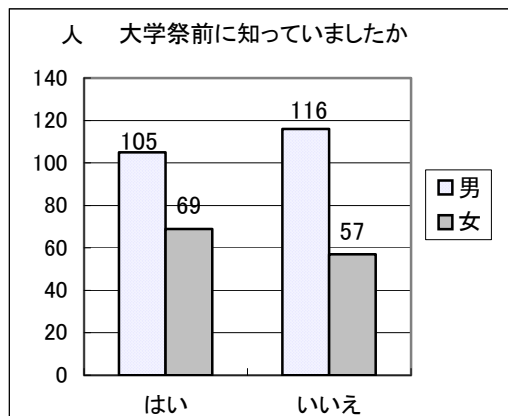


⑦ 大学祭前からオレンジリボンを知っていた学生の男女比

大学祭前にリボンを知っていたかどうかの男女差はカイ二乗検定をしたが、差はなかった ($\chi^2=1.688, F=1, p=.194$)。

表7 大学祭前に知っていましたか

	はい	いいえ	合計
男	105 47.5%	116 52.5%	221 100.0%
女	69 54.8%	57 45.2%	126 100.0%
合計	174 50.1%	173 49.9%	347 100.0%



⑧ 大学祭前にオレンジリボンの意味を知っていると答えた学生全体では85.6%であった。

表8 (正解は4番)

	大学祭前に意味を知っていたか		
	はい	いいえ	合計
意味1	9	12	21
	42.9%	57.1%	100.0%
	5.2%	7.3%	6.2%
意味2	6	6	12
	50.0%	50.0%	100.0%
	3.4%	3.6%	3.5%
意味3	4	1	5
	80.0%	20.0%	100.0%
	2.3%	0.6%	1.5%
意味4	149	126	275
	54.2%	45.8%	100.0%
	85.6%	76.4%	81.1%
意味5	6	20	26
	23.1%	76.9%	100.0%
	3.4%	12.1%	7.7%
合計	174	165	339
	51.3%	48.7%	100.0%
	100.0%	100.0%	100.0%

- ⑨ 大学祭前にオレンジリボンを知っていたことと、大学祭でリボンをつけた関係
 大学祭前にオレンジリボンを知っていた学生は、大学祭当日にリボンをつけた割合は高かった。

表 9

大学祭前にオレンジリボンを知っていたかとオレンジリボンつけた関係

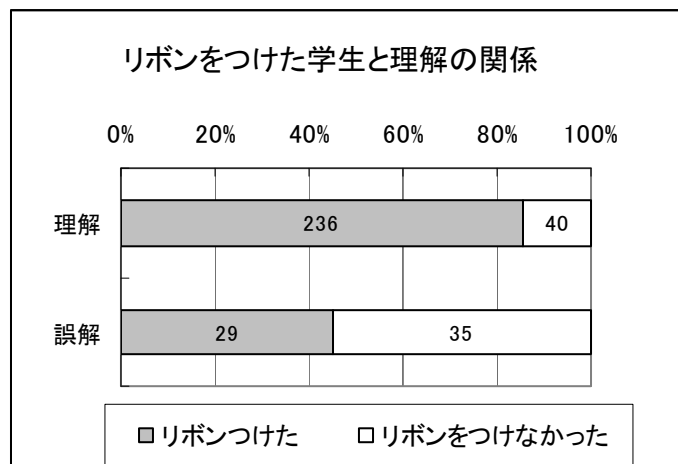
		オレンジリボンをつけたか		
		はい	いいえ	合計
大学祭前に知っていたか	はい	151	25	176
		85.8%	14.2%	100.0%
		56.3%	30.5%	50.3%
	いいえ	117	57	174
		67.2%	32.8%	100.0%
		43.7%	69.5%	49.7%
	合計	268	82	350
		76.6%	23.4%	100.0%
		100.0%	100.0%	100.0%

- ⑩ 大学祭でリボンをつけ、リボンの意味を理解した学生は、全体の 89%であった。
 リボンをつけることに協力してくれた学生のほうが、協力してくれなかった学生よりも、事後の調査における「理解度」が高かった。

表10 大学祭でリボンをつけることに協力したか

	理解	誤解	合計
リボンつけた	236	29	265
	89.1%	10.9%	100.0%
リボンをつけなかった	40	35	75
	53.3%	46.7%	100.0%
合計	276	64	340
	81.2%	18.8%	100.0%

$\chi^2=48.820$, $F=1$, $p<.000$



- ⑪ 大学祭前にオレンジリボンを知り、当日リボンをつけた学生の正解率
 オレンジリボンをつけた学生の87%が正解した。大学祭前にオレンジリボンを知っている場合は、大学祭当日協力してリボンをつけなくても正解率は75%であった。

表11 大学祭前からオレンジリボンを知っていた学生のうちオレンジリボンをつけることに協力した学生

	理解	誤解	合計
リボンつけた	131 87.3%	19 12.7%	150 100.0%
リボンをつけなかった	18 75.0%	6 25.0%	24 100.0%
合計	149 85.6%	25 14.4%	174 100.0%

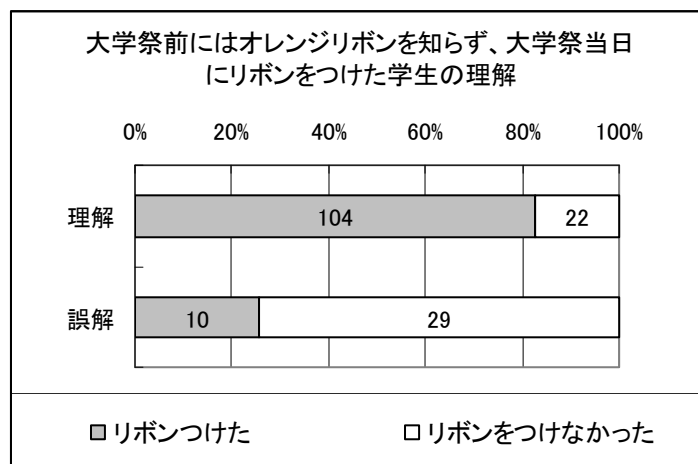
$$\chi^2=2.558, F=1, p<.110$$

- ⑫ 大学祭前に、オレンジリボンを知らずに、大学祭当日に協力してリボンをつけた学生の正解率
 大学祭前にリボンを知らずに、大学祭当日に協力してリボンをつけた学生の正解率は、91%であった。大学祭前にオレンジリボンを知らなかった学生で、リボンをつけた学生のほうが、リボンを付けなかった学生に比較して、理解度が深まった。

表12 大学祭前はオレンジリボンを知らなかった学生のうちオレンジリボンをつけることに協力した学生

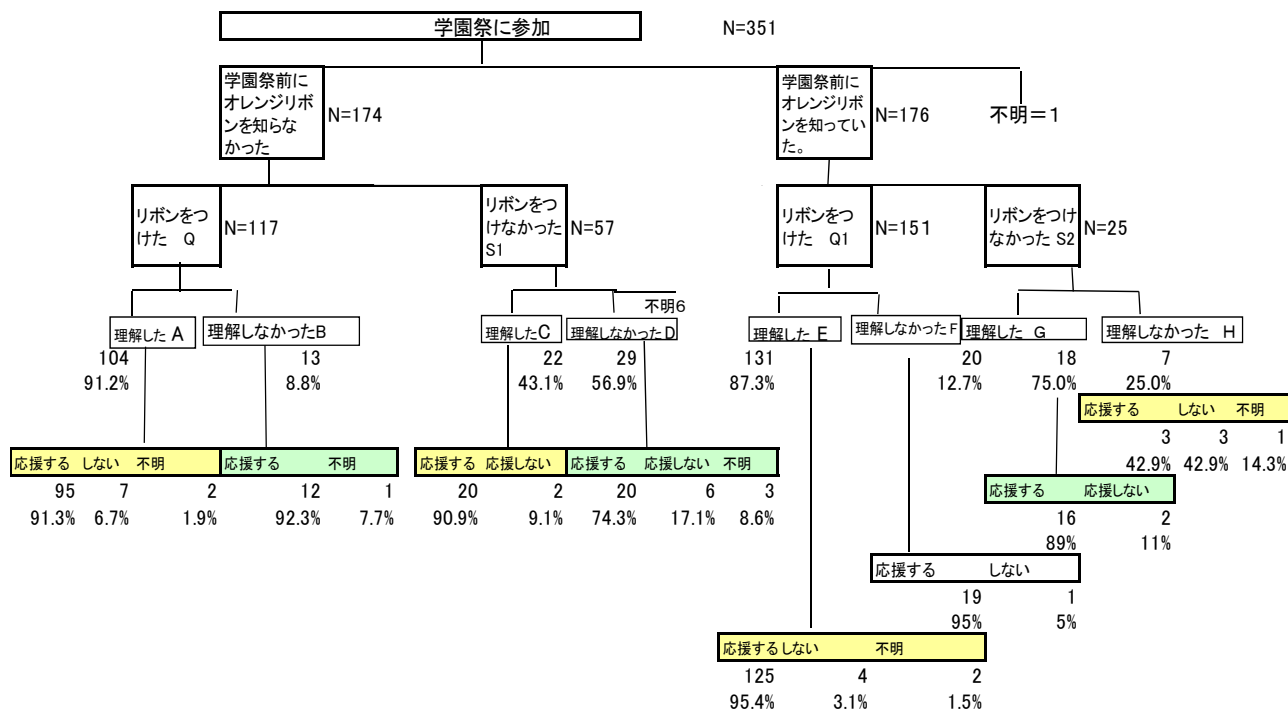
	理解	誤解	合計
リボンつけた	104 91.2%	10 8.8%	114 100.0%
リボンをつけなかった	22 43.1%	29 56.9%	51 100.0%
合計	126 76.4%	39 23.6%	165 100.0%

$$\chi^2=45.149, F=1, p<.000$$



全体の結果

回答 424
学園祭不参加 =73



3. オレンジリボン運動の実際的な効果と啓発の試みの結論

- 1) オレンジリボンを協力してつけてくれる学生のほうが、オレンジリボンの意味の理解度が高かった。
- 2) 大学祭前からオレンジリボンを知っていた学生で、大学祭当日協力してつけてくれた学生と付けなかった学生のオレンジリボンの正解率を調べた。また、大学祭前にはオレンジリボンを知らなかったが、大学祭に協力してリボンをつけた学生と、協力しなかった学生のオレンジリボンの意味についての正解率も調べた。

結論 「大学祭前にリボンのことを知らなかった学生」のほうが、リボンをつけることに協力してくれると、事後の調査では、正しく理解する比率が高くなることがわかった。
大学祭当日、リボンを配布する際配布担当者が説明をし、又リボンとともに説明書を封入したことで、それを読んで理解した学生が多かったことが影響していると考えられる。

* * オレンジリボン調査にたずさわった学生の感想 * *

少しでも正確にオレンジリボンを理解してほしいと思った。今後オレンジリボン活動が活性化し、虐待問題が減少したらいい。学生の認知度が増えることで、学生の啓発が行えるといい。学園祭活動を通じてオレンジリボンのことを知ってくれてよかった。知らなかった学生がつけてくれた。9割がオレンジリボンの意味を理解してくれたのが良かった。理解してくれた人、してくれなかった人が今後オレンジリボンを応援して、認知度があがればいいと感じた。テレビをつけるとまだ虐待問題は発生しているので、もっとがんばらなくてはと思った。オレンジリボンを学園祭で配布する時に各団体にオレンジリボンの趣旨について説明することは大変難しかったが、少しでも認知度があがればいいと思う。リボン運動の意味が広がり、定着していけばよい。アンケート結果から啓発の重要性を改めて感じた。配るとき無関心だと思った人がずっとつけてくれていて嬉しかった。